

平成29年度 学校評価実施報告書

学校番号 33

学校名 千葉県立船橋法典高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>1 教育活動のさらなる充実による「信頼される学校づくり」について</p> <p>① ホームページの更新を適宜行い情報発信することができた。特に中学生とその保護者に関心の高いTOPICSの更新については、4月～1月末で、69回(月平均6.9回)であった。</p> <p>② 中学校訪問は、6月と11月でそれぞれ51校の中学校を訪問した。また、中学生対象の学校説明会は、夏秋の二回の合計で、中学生868人(保護者458人)の参加があった。夏の説明会は各教室を会場にした新しい試みで実施したが、好評であった。</p> <p>③ 「開かれた学校づくり委員会」を計画どおり年3回開催(うち1回はミニ集会)、また地区青少年委員会や地域自治会等の会合には学校から計9回の会合に出席(うち校長が4回出席)し、開かれた学校として地域との連携を強化した。</p>	<p>① 外部からも高い評価が得られているので、引き続き、学校ホームページの充実につとめる。</p> <p>② 夏の学校説明会は各教室を会場にして実施し、好評であったが、30年度は延期になった体育館工事も視野に入れ、開催時期や方法のさらなる工夫が必要である。</p> <p>③ 開かれた学校経営のために「開かれた学校づくり委員会」や地域(自治会・青少年委員会等)との連携については引き続き強化を図る。</p>
	<p>2 今後の計画の策定と段階的实施について</p> <p>① 「将来計画検討委員会」は一回の開催であったが、昨年度同委員会で検討した重点校指定解除後の本校の方針をふまえ、今年度は、少人数クラス編成の持続可能性も課題として、現実的で実務的な検討がなされた。</p> <p>② 文科省の研究指定を受けたことにより、「基礎学力の定着」を当面の近い将来の目標に定めた。長期的にも、定着からさらなる学力向上を目指した将来計画を模索したい。</p>	<p>① 引き続き若手職員の有志参加を促すなど「将来計画検討委員会」のより一層の活性化を図る。</p> <p>② 平成29から二か年で、学校としての共通の研究課題として「基礎学力の定着に向けた学習改善」に取り組み、将来にわたる学力向上の方策についても検討する。</p>
	<p>3 不祥事を起こさない職場づくりについて</p> <p>① 年間3回の目標申告と能力発揮にかかる管理職と職員との面談だけでなく、通年にわたって校長、教頭とも、授業及び校内巡視を行い、職員とのコミュニケーションに留意した。</p> <p>② 不祥事関係の情報は、新聞記事等を用いて教頭が朝会で具体的に示し、指導の機会とした。(4月～1月末で、30回)</p> <p>③ 若手モラルアップ委員会を中心に自発的な授業公開を企画実施するなど、士気の向上が図られた。また、不祥事防止研修の企画運営を行ったモラルアップ委員会でも、若手委員が中心となって活動した。</p> <p>④ 9月に実施したストレスチェックの結果分析に基づいて衛生委員会を実施し、職場としての集団評価について検討した。</p>	<p>① 管理職と教職員及び教職員同士のコミュニケーションを活発にするための、各種面談、授業参観、校内巡視等を継続して行う。</p> <p>② 法令遵守意識を涵養するための、新聞記事や事例に基づいた具体的情報提供や指導は継続する。</p> <p>③ 不祥事防止研修の企画運営だけでなく、引き続き、職員の士気向上のための職場としての取り組みの工夫についても、若手モラルアップ委員会を機能させる。</p> <p>④ 衛生委員会を活用して、引き続き、教職員の心身の健康管理状況の把握と、必要な指導及び助言を行う。</p>
学習指導	<p>① 学校評価の生徒アンケートのうち、「先生の授業の工夫」「授業内容の理解」「学力の向上」の項目が、それぞれ75.3%、75.7%、59.8%であり、生徒の授業満足85%を目指した目標には届かなかった。また、任意で実施した生徒による授業アンケートの総計では、低い評価の項目はなく、「授業のわかりやすさ」に関する二項目では5段階での上位2段階が5割を超え、「質問に答えてくれる」では6割を超えていた。</p>	<p>① 基礎学力定着に向けた調査研究事業の中で、本校生徒にとっての基礎学力(本校で身につけさせたい学力スタンダード)を策定した「法典ハードルプロジェクト」を実質的に機能させることを、次年度の課題とする。また、授業担当者による生徒アンケートのほか、研究委員会でも学習に関する意識調査のアンケートを複数回実施し、学習意欲についての実態を数量的に明確化する。</p>

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学習指導	<p>② 年間2回の授業公開週間を計画通り実施した。また、初任教諭3名、五年経験教諭2名を含む、若手教員の自主的な授業公開と研究授業が19回実施された。また、2名のミドルリーダー級教員の研究授業もそれぞれ実施され、授業改善に向けて協議が行われた。</p> <p>③ 調査研究事業の一環としての、学び直しの朝自習を中心とした基礎学力定着に向けたPDCAの取り組みにより、基礎学力の向上が数次的にも達成された。</p> <p>④ 校長による年間151回の授業参観と指導助言により、職員の授業改善への意欲を高めた。</p>	<p>② 次年度は、「基礎学力の定着に向けた学習改善」の調査研究事業の二年目として、授業改善を目指した授業公開、研究授業等を実施する。また、基礎学力とはなにか、AI的な授業改善の方策、個別の学習支援の方法論等の実践的職員研修も企画して実施したい。</p> <p>③ 調査研究二年目として、学び直しの次の段階の実践課題を定め、実施に取り組み、高次のPDCAを策定し検証する。</p> <p>④ 上記研究課題の取り組みの一環として、授業についての管理職の指導助言を行う。</p>
生徒指導	<p>① 学校評価の生徒アンケートで、生活指導関連の三項目での肯定的な評価の割合は、91.3%、79.1%、70.1%であり、保護者アンケートの同三項目では、98.7%、88.4%、90.8%が肯定的評価であった。概ね高い評価を得たが、特に保護者のポイントは昨年度比でも大きく上昇している。</p> <p>② 生徒面談週間、保護者面談週間を年間にそれぞれ2回ずつ実施し、家庭との連携をふまえた生徒理解を進めた。</p> <p>③ 特別支援校内委員会を兼ねた教育相談委員会での情報交換を週1回定期的に行い、生徒指導部と学年の密な連携が図られている。</p> <p>④～⑦ 多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っており、問題行動等は少ない。今まで積み上げてきた指導が各学年ともに浸透しており、学年・担任と保護者との緊密な連絡がとれている。</p>	<p>① 遅刻を繰り返す生徒の指導、及び自転車通学生徒の指導、そしてSNSの使用方法等は更なる指導への工夫が必要である。</p> <p>② 引き続き、保護者との連絡を密にし、学校の教育活動への理解と協力を求めていく。</p> <p>③ 教育相談委員会との連携をさらに密にし、生徒が安心して学校生活を送れるように職員間の共通理解を深める。</p> <p>④～⑦ 欠席・遅刻・早退の数を減らすことを目指し、遅刻については特に段階的に指導を行う。</p>
キャリア教育	<p>① 「学校評価」アンケートの進路指導に関する項目において肯定的回答の割合は、生徒で、77.8%、保護者で92.1%で、高い評価が得られた。</p> <p>② 1年進路ガイダンス（6月進路講演会11月上旬級学校等バス見学3月カタリバ）、2年進路ガイダンス（6月進路講演会11月分野別・2月3年生合格体験談）、3年(4月)分野別説明会・進路ガイダンス（5月面接指導I・分野別・6月面接指導II）就職説明会(5回)・内定者セミナー(1月)大学短大説明会・専門学校説明会(5月入試全般・9月推薦入試・内定者指導)SPI検査(6月)、進研マーク模試(6月)小論文模試(6月)看護模試(6月)インターンシップの実施(2年生1名)その他必要に応じて説明会・面接指導を実施した。難関大学(神田外語大など)に推薦入試で合格、学校推薦による就職内定率9月(91.2%)昨年比5.0ポイントアップの結果を示した。公務員試験、千葉県警察に2名合格。</p> <p>③ 引き続き積極的に企業訪問を実施した。今年度の求人企業数は296社であった。</p> <p>④ 個別相談と個別指導の充実により、高い就職内定率を示した。</p>	<p>① 保護者に対する進路情報を充実させる。</p> <p>② 計画的な進路ガイダンスや内容の充実を図る。また、法典タイムやLHRを有効に活用し、個々の生徒の進路希望に対応した進路指導を心がける。また、毎月の「進路News」の発行、適宜「学年進路ニュース」の発行により進路進捗状況の共有を図るなど、進路指導部と学年の連絡を密にして、関係のとれた指導を行う。</p> <p>③ ホームページ等を利用し、進路情報の発信を充実させる。</p> <p>④ 引き続き、進路室・資料室の整理整頓・整備に心がけ、より生徒が相談しやすい環境を整え、進路室等の使用頻度をさらに高める。</p>
特別活動	<p>① 緑城祭では、生徒会による実行委員会を組織し、開閉会式など主体的な運営をすることができた。各企画ではアトラクションなど、よく工夫した企画内容を成功させたクラスをはじめ、安定した活動実績を残している文化系部活動も、質の高い創作意欲溢れた発表を行った。</p> <p>② 4月末日の部活動加入調査で、加入率67%であり、昨年度からさらに3ポイント増えている。定着率も高く、県大会等で活躍する部活動も増えている。</p> <p>③ 部活動や生徒会行事などの場面で、少しずつ教員主導型から生徒主導型へと質の変化が見られている。</p>	<p>① 行事終了後にアンケートを実施して問題点を整理し、改善の手がかりとする。(年度末までに行事ごとの改善点をデータ化し、次年度に向け、確実に引き継ぎができるようにする。)</p> <p>② 部活動の活性化を維持することで、今後も加入率・定着率の向上を図る。</p> <p>③ 生徒会行事の活性化のため、生徒会本部役員や各委員会により生徒活動の高揚を図る。</p>

